

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200593
法人名	株式会社シルバーケアサービス
事業所名	グループホームひまわり
所在地	愛媛県今治市八町西4丁目1番14号
自己評価作成日	平成 25 年 8 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 9 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平成14年9月の開設当初から、ホームの方針「柱」は変わっていない。家族介護を拠点に、家庭の温かさを大切に取り組んでいる。入居される方が、少しでも元気に、楽しく笑顔で過ごしていただけることがまず第一。その中で、自立支援、家族支援を並行して行っている。 「食事」「運動」「水分」「排泄」のテーマを重要視して日々の生活ケアに取り入れている。 「食事」・自家栽培の野菜や地元の新鮮な食材を使用して、毎日毎食手作りの食事を提供している。その過程は、利用者とともに作業している。 「運動」・体操、散歩、余暇活動など、日中適度な運動の習慣化を図っている。 「水分」・1日1500ccを目標とし、徹底してチェックしている。ジュースやゼリーなど工夫もしてできる限り多く摂取していただける工夫をしている。 「排泄」・排便対策として手作り野菜でジュースや調理を行ったり、運動、水分摂取に取り組んでいる。おむつから布パンツへ、可能性を追求しながらケアに当たっている。 ・また、職員の教育・育成にも努力している。サービスの質向上には、職員の質の向上が必須。外部研修やホーム内研修を積極的に実施している。職員の意見も反映しながらホームの運営を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の創業者は食事にこだわりがあり、野菜は法人の畑で採れた無農薬野菜を使い、魚は朝市場まで職員が買い出しに行き、新鮮な旬のものを調理して利用者に提供している。温かいものは温かいうちに提供し、器も工夫しており、利用者は食事を楽しみにしている。食事は手作りを心がけ、おやつをはじめ保存食も漬物、切干大根、ジャム、梅干、梅酒など利用者と一緒に作り保存している。納涼祭などで地域住民と一緒にになってやぐらを組んで盆踊りをしたり、屋台も出したりして法人全体で地域の大きなイベントとなっている。家族会の交流も盛んで、敬老会やクリスマス会など事業所の活動や利用者の生活全般を家族と一緒に支えてくれている。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します											
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひまわり

(ユニット名) ほほえみ

記入者(管理者)

氏 名 富田 陽子

評価完了日 平成 25 年 8 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員間で話し合って作成した理念を、毎朝申し送り時に復唱している。ミーティングで話し合い、理念の共有を意識付けすることで、日々、具体的に実践できるよう取り組んでいる。 (外部評価) 法人の理念と事業所独自のユニット毎の理念を作成している。理念は朝のミーティングでの復唱や話し合いの中で職員間で共有し実践へと繋げている。理念の見直しを検討しているが、事業拡大による人事異動もあり、現在の理念を共有し実践することに努め、利用者に向き合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 生活の中で社会参加、地域の方との交流の機会が確保できるように、地域の行事に参加したり、美容院や買い物、毎日散歩に出かけている。毎年開催している納涼祭や学生の介護実習、ボランティア慰問等を受け入れ、積極的に交流している。 (外部評価) 日常的に散歩時に出会う近所住民と挨拶したり会話をしたりして交流している。自治会の会議に参加して情報を得ており、事業所からの情報も発信するように努めている。学生の実習や見学を受け入れるなど、常にオープンに、年々地域との交流に力を入れている姿勢が伺われた。	開設以来少しずつ地域に溶け込んで繋がりを深めているが、防災との兼ね合いも考え、引き続き地域との付き合いに力を注ぐことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議での報告や法人が運営しているサロンを活用した情報発信の他、電話等による見学や相談を随時受けている。必要な情報を提供するなど、地域の方々の理解が深まるよう今後も努めていきたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を2カ月に1回開催し、利用者の状況、 行事、課題等を報告して、出席者から質問や意見をい ただいている。地域の情事等、情報を得られるようにな り、ホームから地域の行事へ参加したり、ホームの 避難訓練に地域の方が協力してくれるなど、心強い協 力体制が構築されてきている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、自治会員、 婦人会長、市担当者などの参加を得て開催している。 自治会員の参加者は毎年変更しているが、引継ぎを上 手にしているため協力体制が継続されている。 会議は市担当者に合わせ平日に開催しており、参加者 から発言を得やすいような雰囲気づくりをして意見交 換をしている。出された意見は運営に反映するように 努め、実行した内容については記録に残し、次回の会 議で報告をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者とは随時電話や訪問により事業所の現状 報告や相談を行っており、適宜適切な指導、助言をい ただいている。担当者も協力的である。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の報 告や情報交換をしている。日頃から市担当者とは電話 による連絡やサービスの確認をして、良好な関係を築 いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に関することを十分理解し、内部研修やミー ティングで話し合い正しいケアを実践している。職員 は、鍵をかけないケアの意義を理解しており、玄関や 部屋は常に開放的にしている。	
			(外部評価) 職員は事業所内外の研修に参加し、身体拘束をしない ケアを繰り返し確認し、振り返り見直しをするように している。玄関の施錠はしないことや、ベッドの高さ を調整して危険を回避するように努めている。言葉で の拘束にならないよう努めているが、利用者の安全を 考えた対応が必要な場合は、専門職として家族へ説明 して理解を得るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 内部研修や外部研修に参加し、高齢者虐待防止法等についての知識を習得している。虐待の危険を早期に見つけ、関係機関と協働して速やかに対応していく。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 内部研修や外部研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての知識を習得している。必要に応じ、関係者と話し合いながら総合的な利用者支援に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書や契約書、その他、具体的に説明を行い理解が得られるよう努めている。利用屋や家族が理解納得できるよう、不安や疑問点について、丁寧に説明するよう心掛けている。契約内容に変更が生じるときは、その都度、説明、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や運営推進会議で気軽に意見をいただける場を提供している。また、日頃より、面会や電話などで密に連絡しており、意見や要望を把握し、迅速に対応することに努めている。 (外部評価) 利用者からの訴えや感情の表れに注意し、職員は耳を傾け、意見を聞くように努めている。家族からの意見は、訪問時や運営推進会議の開催時などに職員が声かけをして、話しやすいように工夫して聞くようにしている。出された意見は速やかに対応するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者や管理者は、ミーティング等で意見交換を行い、利用者や職員の意向を重視して、より良いケアと健全な運営への強い思いを持って運営している。また、職員の自発的、積極的な職務遂行を非常に期待し、評価している。 (外部評価) 長く勤めている職員が多く、管理者には言いたいことを伝えやすい信頼関係が築かれている。発言の少ない職員にも、意見を言える機会を設け、職員の意見を運営に取り入れる工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、個々の就業状況を把握して評価している。人事考課による自己評価（年2回）、企業評価、個人面談等を実施。就業環境の整備にも積極的な取り組みをしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は、職員育成の重要性を認識している。個々の能力を把握し、内部研修の実施や外部研修に参加できる機会を確保している。職員の知識や技術向上による、より良いチームケアを目指しつつ、業務遂行ができることを期待している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会に入会しており、研修会参加等で交流の機会がある。また、全国規模での研修へも可能な限り参加して、サービスの向上に努めている。他のグループホームからの見学依頼も快く受け入れている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人とのコミュニケーションを大切にし、家族とも密に連絡を取りつながりを持てるようにしている。些細なことでも職員間で情報を共有し、良好な関係作りができるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ホームの方針を理解していただくだけでなく、思いや要望などをしっかり受けとめ、家族な納得できるまで時間をかけて説明し、共に利用者の生活を支えていけるよう働きかけている。家族との連絡を密にして良好な関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 「その時」の必要な支援を見極めるために、必要に応じて管理者や職員、法人内職員、他事業所や専門員らへ相談して適切な対応ができるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は一緒に過ごしなが、支えを必要としていることに気づいたり、主体的な生活を送れるように、本人の力、できることの把握に努めている。共に支えあえる関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃から家族と密に連絡を取り、日々の生活状況や、健康状態を伝えたり、支援の方法を相談し、共に考え、必要時には協力していただける関係が築けている。遠方の方も定期的な面会や手紙などで交流している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人、知人、馴染みの方が気軽に面会に来られるよう、開放的で家庭的な雰囲気づくりに努めている。本人の要望（行きたい場所）など、希望に添えるよう対応している。 (外部評価) 利用者の希望に応じて、家族の協力を得て馴染みの場所に行けるよう支援している。行きつけの理髪店へ行きたいと要望があれば、職員が同行して支援する場合もある。また、利用者が会いたい人に手紙などで連絡し、面会できるよう支援している。事業所の訪問はいつでも受け入れできる体制を整えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共に支えながら喜怒哀楽の生活をする中でなじみの関係ができ、家庭的な雰囲気を大切に、笑顔あふれる生活ができるよう、職員や他の利用者とは良好な関係づくりに配慮している。家事や余暇活動などをしながら、自然なコミュニケーションができています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了した場合は、必要に応じ、面会、相談など支援を行っている。関係者に対しての情報伝達も行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人や家族に直接聞いたり、生活の中での会話や行動などから希望や意向の把握に努めている。	
			(外部評価) 利用者から日々の生活の中で思いや意向を聞き、把握するよう努めている。聞き取りが困難な利用者には、表情や発するサインを見逃さないようにして、把握するよう努めている。家族会の開催時などを利用して、職員は利用者を交えて話し合い、意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族、関係者から、これまでの生活歴などを継続的に聞き、把握に努めて、本人や家族の理解、支援に努めている。現在の言動等も家族に伝え、より良いケアへつなげられるよう取り組んでいる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員は、一人ひとりの1日の生活を振り返りながら、できることや役割を見つけだし、個人の有する能力を発揮できる支援の方法を経験や研修で学び、ミーティングで全職員が共有し実践している。総合的な支援ができる力を養える職場である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月2回のミーティングで、日頃の本人や家族からの要望や変化を把握し、職員間でよく話し合って介護計画を作成している。必要に応じ見直しを行い、その人に合ったより良いケアの実践を目指している。 (外部評価) 職員が担当する利用者の介護計画の原案を作り、計画作成担当者が家族からの意見を反映して、全体を見直し作成している。月2回のミーティングで計画や日々の情報を確認し、定期的に見直しを行うほか利用者の状態に応じてその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子や実践をありのままに記録し、次の介護計画の見直しに役立てている。職員は、情報共有を図るため、申し送りの的確な伝え方について、日々鍛錬している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 社会資源の把握に努め、必要性に応じ、柔軟な支援に努めている。地域の訪問看護ステーションや医師との連携が少しずつホームで暮らし続けることのできるケアに結びついている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議のメンバーには地域の民生委員や市の職員、自治会長がおり、協力的であり、相談や助言が得られる。また、ボランティア劇団、警察、消防、教育機関と協力しながら安全で豊かな暮らしができるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) これまでのかかりつけ医に継続して必要な医療が受け られるよう支援している。必要に応じ、家族と相談し ながら、他の医療機関や専門医の情報を提供してい る。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て 受診することができるよう支援している。家族の受診 介助は利用者の状態の把握になると考えている。家族 が同行できない場合や重要なことがある場合は、職員 が情報提供をして受診介助をしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員と看護職員、必要に応じ法人内看護職に相談 しながら、医療関係者と連携を取っている。日々の健 康管理はもちろん、状態の変化や異常には十分に注意 して早期対応や緊急時の対応ができるよう努めてい る。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、面会や相談対応により不安の軽減に努め ている。病院関係者や本人・家族と話し合いをもち、 早期の退院につながるよう支援している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化及び終末期の支援の対応について、時機を見な がら、本人、家族、関係者らと納得のいくまで話し 合っている。看取りについて、運営推進会議で意見交 換を行い、第三者の意見も参考に体制の見直しを実施 している。	
			(外部評価) 事前に事業所としてできることできないことを利用者 や家族に説明している。2階のユニットでは看取りの 経験があり、家族に事業所に宿泊してもらい協力を得 ながら支援を行った。家族がゆったり利用者と一緒に 宿泊できる居室もある。看取りは職員にも大変だった が貴重な体験となり、今後の支援に繋がり、家族と職 員との話し合いを重ねることが大切だと感じている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員は消防署の応急手当講習や内部研修による急変時対応の研修を受けて、実践力を身につけている。利用者の状況把握に努め、状態に応じた対応に備えている。AEDを設置しており、全職員が使用法を学習している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練を年2回行っている。地域の災害訓練にも参加し、学びを深めた。春の避難訓練には地域の方が参加してくれ、意見交換ができた。マニュアルの見直しや地域連携の重要性、訓練の大切さを改めて感じている。地域と互いにサポートし合い、地域の災害対策にも協力していく。 (外部評価) 年2回防災訓練を実施している。立花地区の住民は防災活動に意識が高く、消防団員が運営推進会議に参加してくれ助言を得ている。事業所は山や海から離れた立地にあり、建物は耐震構造で、利用者を災害から守ることはもちろんのこと、地域の防災の拠点となるよう計画をしている。	地域の防災活動にも参加し、災害時には近隣の被災者の方々を事業所で受け入れできるよう計画中で、備蓄品も徐々に増やしている。引き続き少しずつ防災対策を具体化し、実現化していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 雇用契約時には秘密保持についての誓約書を交わしている。内部研修でプライバシーの確保について学んでいる。全職員が、具体的な介護の方法、声掛けの方法などに配慮して、さりげないサポートができるよう努める。 (外部評価) 利用開始時に職員が利用者や家族に説明をして、守秘義務の誓約書を交わしている。職員一人ひとりのケアの向上が利用者の尊重とプライバシーの確保に繋がると考え、県社会福祉協議会や在宅介護研修センター、グループホーム協議会などの研修に参加し、内部研修で職員全員が共有し実践できるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定の場面を大切にして、能力に応じた対応をし、希望や願いを意図的に引き出せるよう関わっていく。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切にした支援をしている。起床、入浴、食事、トイレ等のケアも個々のリズムを尊重し、柔軟な支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 必要に応じ、本人と話をしながらお化粧やおしゃれのお手伝いをしている。行きつけや希望の美容室へ行けるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は全て手作りである。農園で野菜を栽培している。地元の食材、旬のものを沢山使った料理をバランスに配慮して全て手作りで食事を提供している。食事の準備や片づけはできる範囲で利用者と一緒に行っている。職員も同じテーブルで一緒にお話をしながら楽しく食事をしている。 (外部評価) 事業所の創業者は食事に対してこだわりがあり、野菜は法人の畑で採れた無農薬野菜を使い、魚は朝市場まで職員が買い出しに行き、新鮮な旬のものを使った手作りの食事を利用者に提供している。品数も多く調理方法も多彩で、食器にも工夫をしている。職員は利用者と同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をしている。また、利用者は食器の片付けなどできることを職員と一緒に手伝っている。食事の調理は職員の教育にもなると考え、調理の指導にも力を入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 好みや習慣を把握し、十分な水分摂取ができるよう摂取量をチェックして職員全員で気をつけている。バランスのよい食事の提供には十分配慮している。好き嫌いなど、偏食がある場合は、違った形で摂取できるような方法を検討して対応している。健康管理と共に、状況に応じ主治医にも対応策を相談している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食前の口腔体操を行い、食後は毎回個々にあった口腔ケアを実施している。義歯は每晚洗浄消毒している。個々の口腔状態を把握し、必要に応じて、専門医を受診し、適切な処置や指導を受けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄をトイレでできるようにトイレチェック表を使用して一人一人の排泄パターンを把握し、「おむつ0ゼロ」を目標に、おむつやパット使用を減らせるよう努めている。	
			(外部評価) トイレチェック表を利用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけしトイレ誘導を行いながらトイレで排泄ができるよう努めている。極力利用者にはオムツを使用することなく、紙パンツの使用で対応している。夜間は、状態に応じてパットの大きさを変更し対応しており、睡眠を重視し利用者を無理に起こすことはしていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 適度な運動、水分の摂取、食物繊維の多い食事など予防・対応に努めている。おかゆやきな粉牛乳など、調理に工夫している。必要に応じ、主治医に相談して指示や処方を受けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日夕方に一人一人のタイミングでゆっくり入浴してもらっている。無理強いをせず、楽しく入ってもらえるよう声掛け等工夫している。	
			(外部評価) 清潔保持のため、利用者の希望に応じて毎日夕方に入浴することができる。入浴が苦手な利用者には、無理強いをせず、声かけなどに工夫して入浴ができるよう支援している。時には、鈍川温泉のお湯を運んできて、利用者にわかるよう浴室の入口に鈍川温泉と表示し、入浴を楽しむことができる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間しっかり安眠できるよう、日中身体を適度に動かせる支援をしている。生活リズムを整え、個々のペースで過ごせるよう配慮している。体調などにも留意して、必要な休息がとれるよう、また、入眠まで落ち着いた時間が過ごせるよう配慮している。。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 日々の健康管理と主治医との連携を密にし、処方されたものは処方箋等で、目的、副作用、用法、用量などを十分理解して、チェック表により確認を慎重にしながら服薬管理をしている。必要に応じ、主治医へ状況を連絡して、治療や服薬調整を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や希望などを把握し、一人一人が生活に楽しみや生きがいを見つけられるよう日々の余暇活動を考えて支援している。家族や友人とのお出かけなど、外出や外泊も自由にでき、気分転換につながっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の行事や買い物、季節のお出かけなど、楽しみながら過ごせるよう支援している。家族とドライブやお出かけなどもよく行かれている。 (外部評価) 事業所の近くにお寺が多く、日常的にお寺などに出かけられるよう支援している。季節に応じて、弁当を持って花見に出かけたり、100円均一の店に買い物に出かけたりして気分転換を図っている。事業所の近くに法人のグループ企業の店舗があり、正月の休業を利用して、利用者はおせち料理を食べて外食気分を味わってもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の希望や力に応じて支援している。お小遣いとして預かっているお金の管理状況を、定期的に家族や本人に伝えて、合意を得ている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 月1回の新聞に手紙を書き、家族へ送っている。個々の希望により、電話で要望を伝えるなど支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 段差のないバリアフリー構造である。手すりも設置している。室温は、床暖房、空調設備を設置し、体調面へ配慮しながら調整している。生活の音や炊事の香り、絵画や工作物、テーブルの上には季節の花など、季節や五感に刺激のある環境を作っている。なじみのある音楽も流す時間帯がある。 (外部評価) リビングのスペースは広く、バリアフリーの造りをしており、利用者は安全にゆったりと過ごすことができる。季節感を大切にして生花や創作物を飾り、ピアノや古い家具などがさりげなく配置しており、落ち着いた空間となっている。浴室やトイレの掃除は行き届き、においもなく清潔さが保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食卓の間、ソファの間、畳の間など、ゆったりと過ごせるスペースがある。庭にも自由にできることができ、ベンチを置き、庭には四季折々の花々が咲き憩いの場となっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は、家族に依頼し、自宅で使っていたもので馴染みのモノをもってきていただき、過ごしやすく居心地のよい部屋をつくっていただいている。写真、工作物を飾っている。 (外部評価) 居室は、家族にお願いして自宅で使い慣れた机、いす、タンスなど持ち込むことができ、落ち着きのある空間となっている。居室の清掃は、職員が利用者と一緒に毎朝行っており、清潔が保たれている。衣替は、季節に応じて家族が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個々の「できる力」を把握し、安心して過ごせる環境作りを工夫するよう努めている。家族や専門員と相談して迅速に対応している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200593
法人名	株式会社シルバーケアサービス
事業所名	グループホームひまわり
所在地	愛媛県今治市八町西4丁目1番14号
自己評価作成日	平成25年8月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 9 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平成14年9月の開設当初から、ホームの方針「柱」は変わっていない。家族介護を拠点に、家庭の温かさを大切に取り組んでいる。入居される方が、少しでも元気に、楽しく笑顔で過ごしていただけることがまず第一。その中で、自立支援、家族支援を並行して行っている。 「食事」「運動」「水分」「排泄」のテーマを重要視して日々の生活ケアに取り入れている。 「食事」・・・自家栽培の野菜や地元の新鮮な食材を使用して、毎日毎食手作りの食事を提供している。その過程は、利用者とともに作業している。 「運動」・・・体操、散歩、余暇活動など、日中適度な運動の習慣化を図っている。 「水分」・・・1日1500ccを目標とし、徹底してチェックしている。ジュースやゼリーなど工夫もしてできる限り多く摂取していただける工夫をしている。 「排泄」・・・排便対策として手作り野菜でジュースや調理を行ったり、運動、水分摂取に取り組んでいる。おむつから布パンツへ、可能性を追求しながらケアに当たっている。 ・また、職員の教育・育成にも努力している。サービスの質向上には、職員の質の向上が必須。外部研修やホーム内研修を積極的に実施している。職員の意見も反映しながらホームの運営を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の創業者は食事にこだわりがあり、野菜は法人の畑で採れた無農薬野菜を使い、魚は朝市場まで職員が買い出しに行き、新鮮な旬のものを調理して利用者に提供している。温かいものは温かいうちに提供し、器も工夫しており、利用者は食事を楽しみにしている。食事は手作りを心がけ、おやつをはじめ保存食も漬物、切干大根、ジャム、梅干、梅酒など利用者と一緒に作り保存している。納涼祭などで地域住民と一緒にになってやぐらを組んで盆踊りをしたり、屋台も出したりして法人全体で地域の大きなイベントとなっている。家族会の交流も盛んで、敬老会やクリスマス会など事業所の活動や利用者の生活全般を家族と一緒に支えてくれている。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひまわり

(ユニット名) ゆめ

記入者(管理者)

氏 名 富田 陽子

評価完了日 平成 25 年 8 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 各フロアで理念を職員間で話し合って作っている。利用者さんのできること、したいことをケアで生かせるようにミーティング時に話し合っている。利用者・職員間の絆を大切にしたいと考えている。 (外部評価) 法人の理念と事業所独自のユニット毎の理念を作成している。理念は朝のミーティングでの復唱や話し合いの中で職員間で共有し実践へと繋げている。理念の見直しを検討しているが、事業拡大による人事異動もあり、現在の理念を共有し実践することに努め、利用者に向き合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事（文化祭・運動会・お祭り）などに参加している。今年の納涼祭の参加も、地域の方々の参加もあり盛り上がっている。防災訓練などにも、民生委員の方や防災地区の代表の方が参加して下さった。 (外部評価) 日常的に散歩時に出会う近所住民と挨拶したり会話をしたりして交流している。自治会の会議に参加して情報を得ており、事業所からの情報も発信するように努めている。学生の実習や見学を受け入れるなど、常にオープンに、年々地域との交流に力を入れている姿勢が伺われた。	開設以来少しずつ地域に溶け込んで繋がりを深めているが、防災との兼ね合いも考え、引き続き地域との付き合いに力を注ぐことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々が気軽に相談などに来てもらえるよう、法人がサロンを開いている。また、電話や訪問による相談も随時受けている。運営推進会議の議題の一つもあり、地域の人々の認知症介護と地域でのサポート体制が作れるよう、広めていきたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は2ヶ月1度開催している。年度変わりに自治会長が代わるが引継ぎもスムーズで参加していただいている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、自治会員、婦人会長、市担当者などの参加を得て開催している。自治会員の参加者は毎年変更しているが、引継ぎを上手にしているため協力体制が継続されている。会議は市担当者に合わせ平日に開催しており、参加者から発言を得やすいような雰囲気づくりをして意見交換をしている。出された意見は運営に反映するように努め、実行した内容については記録に残し、次の会議で報告をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者とは随時電話や訪問により事業所の現状報告や相談を行っており、適宜適切な指導、助言をいただいている。担当者も協力的である。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の報告や情報交換をしている。日頃から市担当者とは電話による連絡やサービスの確認をして、良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 内部研修や外部研修に参加し、身体拘束についての知識を習得し実践している。玄関や居室は施錠することなく、常に開放的にしている。階段についてはさりげなく注意を払い安全の確保に努めている。	
			(外部評価) 職員は事業所内外の研修に参加し、身体拘束をしないケアを繰り返し確認し、振り返り見直しをするようにしている。玄関の施錠はしないことや、ベッドの高さを調整して危険を回避するように努めている。言葉での拘束にならないよう努めているが、利用者の安全を考えた対応が必要な場合は、専門職として家族へ説明して理解を得るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 内部研修や外部研修に参加し、高齢者虐待防止法等についての知識を習得している。虐待の危険を早期に見つけ、関係機関と協働して速やかに対応していく。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 内部研修や外部研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての知識を習得している。必要に応じ、関係者と話し合いながら総合的な利用者支援に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書や契約書、その他、具体的に説明を行い理解が得られるよう努めている。利用屋や家族が理解納得できるよう、不安や疑問点について、丁寧に説明するよう心掛けている。契約内容に変更が生じるときは、その都度、説明、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や運営推進会議で気軽に意見をいただける場を提供している。また、日頃より、面会や電話などで密に連絡しており、意見や要望を把握し、迅速に対応することに努めている。	
			(外部評価) 利用者からの訴えや感情の表れに注意し、職員は耳を傾け、意見を聞くように努めている。家族からの意見は、訪問時や運営推進会議の開催時などに職員が声をかけをして、話しやすいように工夫して聞くようにしている。出された意見は速やかに対応するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者や管理者は、ミーティング等で意見交換を行い、利用者や職員の意向を重視して、より良いケアと健全な運営への強い思いを持って運営している。また、職員の自発的、積極的な職務遂行を非常に期待し、評価している。 (外部評価) 長く勤めている職員が多く、管理者には言いたいことを伝えやすい信頼関係が築かれている。発言の少ない職員にも、意見を言える機会を設け、職員の意見を運営に取り入れる工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、個々の就業状況を把握して評価している。人事考課による自己評価（年2回）、企業評価、個人面談等を実施。就業環境の整備にも積極的な取り組みをしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は、職員育成の重要性を認識している。個々の能力を把握し、内部研修の実施や外部研修に参加できる機会を確保している。職員の知識や技術向上による、より良いチームケアを目指しつつ、業務遂行ができることを期待している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会に入会しており、研修会参加等で交流の機会がある。また、全国規模での研修へも可能な限り参加して、サービスの向上に努めている。他のグループホームからの見学依頼も快く受け入れている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人とのコミュニケーションを大切にし、家族とも密に連絡を取りつながりを持てるようにしている。些細なことでも職員間で情報を共有し、良好な関係作りができるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ホームの方針を理解していただくだけでなく、思いや要望などをしっかり受けとめ、共に利用者の生活を支えていけるよう働きかけている。家族会も開催（年2回）し、家族間の交流も良好である。日頃から気軽に立ち寄っていただけるよう、家族との連絡を密にして良好な関係づくりに努めている。また、利用者さんについてなどなるべく早期に連絡している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 「その時」の必要な支援を見極めるために、必要に応じて管理者や職員、法人内職員、他事業所や専門員の方々と話し合い適切な対応ができるように努め、また継続している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の個性や残存能力を見出し、本人が主体的に生活が送れるように支援している。家事（もやしの下処理）などを共に行い、お互いに学び・支えあう関係が築けている。職員と利用者の絆を大切にしていきたいと考えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃から家族と密に連絡を取り、日々の生活状況や、健康状態を伝えたり、支援の方法を相談し、共に考え、必要時には協力していただける関係が築けている。毎月、利用者の様子を伝えるために、写真付の新聞を送り遠方の家族にも安心していただけるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人、知人、馴染みの方が気軽に面会に来られるよう、開放的で家庭的な雰囲気づくりに努めている。本人の要望（行きたい場所）などをコミュニケーションを通じて把握し、希望に添えるように対応できるよう努めている。面会者も体操やレクリエーションに参加されるように声をかけ一緒に時間をすごしていただいている。 (外部評価) 利用者の希望に応じて、家族の協力を得て馴染みの場所に行けるよう支援している。行きつけの理髪店へ行きたいと要望があれば、職員が同行して支援する場合もある。また、利用者が会いたい人に手紙などで連絡し、面会できるよう支援している。事業所の訪問はいつでも受け入れできる体制を整えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共に支えながら喜怒哀楽の生活をする中でなじみの関係ができ、家庭的な雰囲気大切に、笑顔あふれる生活ができるよう、職員や他の利用者とは良好な関係づくりに配慮している。家事や余暇活動などをしながら、自然なコミュニケーションができています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了した場合は、必要に応じ、面会、相談など支援を行っている。関係者に対しての情報伝達も行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人の思いや希望を、利用者や家族に聞いたり、コミュニケーションの中から把握し支援できるよう、ミーティングで話し合いながらすすめている。	
			(外部評価) 利用者から日々の生活の中で思いや意向を聞き、把握するよう努めている。聞き取りが困難な利用者には、表情や発するサインを見逃さないようにして、把握するよう努めている。家族会の開催時などを利用して、職員は利用者を交えて話し合い、意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族、関係者から、これまでの生活歴などを継続的に聞き、把握に努めている。生活歴が把握できない利用者については、日々行動や言動に注意深く耳を傾け、職員間で話し合いこれからの支援に繋げている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々変化していく利用者の様子を、関わり合いの中で把握し、状態に合わせた支援を行えるように努めている。現状の把握を知るために、ケアのQOL向上を図った、内部・外部研修に参加し、総合的な支援ができる力を養えるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月2回のミーティングで、日頃の本人や家族からの要望や変化を把握し、職員間でよく話し合い、職員の利用者へのケアに対する不安も解消しながら、介護計画を作成している。必要に応じ見直しを行い、その人に合ったより良いケアの実践を目指している。 (外部評価) 職員が担当する利用者の介護計画の原案を作り、計画作成担当者が家族からの意見を反映して、全体を見直し作成している。月2回のミーティングで計画や日々の情報を確認し、定期的に見直しを行うほか利用者の状態に応じてその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子などの把握に努め、個別記録をしている。また、利用者の服薬管理については、職員全員が把握できるよう個別ノートを作り、変化した際の情報の共有を図っている。職員間の申し送りでの情報の必要性を理解し、工夫を交えて、情報交換を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の状況に合わせて、家族や施設全体で話し合い、柔軟な対応に努めている。利用者や家族にとって最善の方法を相談し合い、必要に応じて外部からの訪問看護を利用させていただいたり、工夫をおこなっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議のメンバーには地域の民生委員や市の職員、自治会長がおり、協力的であり、相談や助言が得られる。また、ボランティア劇団、警察、消防、教育機関と協力しながら安全で豊かな暮らしができるよう支援している。その中で利用者が楽しむことができるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) これまでのかかりつけ医に必要な医療支援を継続して 受けている。家族と相談しながら、他の医療機関や専 門医の情報を提供し、適切な支援が受けられるよう支 援し、家族の方も、助言・情報を伝え、病院受診に いっていただいている。 (外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て 受診することができるよう支援している。家族の受診 介助は利用者の状態の把握になると考えている。家族 が同行できない場合や重要なことがある場合は、職員 が情報提供をして受診介助をしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員と看護職員、必要に応じ法人内看護師に相談 しながら、医療関係者と連携を取っている。日々の健 康管理はもちろん、状態の変化や異常には十分に注意 して早期対応や緊急時の対応ができるよう努めてい る。服薬に関しては、錠剤が飲めない利用者がおり、 医療機関と相談し飲みやすい形に変えるなど、対応し ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、面会や相談対応により不安の軽減に努め ている。病院関係者や本人・家族とサマリーなどを活 用して話し合い、早期の退院につながるよう支援して いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 時機を見ながら、本人、家族、関係者らと納得のいく まで話し合っている。看取りについては、終末期の利 用者を実際に介護支援し、訪問看護・訪問診療などを 実施し医療機関との連携を密に看取りを実施した。管 理者・家族・看護師・ケアにあたる介護職員とでケア 会議を開き、職員全員の支援の方向性をあわせ、家族 との話し合いを重ねながら取り組めた。 (外部評価) 事前に事業所としてできることできないことを利用者 や家族に説明している。2階のユニットでは看取りの 経験があり、家族に事業所に宿泊してもらい協力を得 ながら支援を行った。家族がゆったり利用者と一緒に 宿泊できる居室もある。看取りは職員にも大変だった が貴重な体験となり、今後の支援に繋がり、家族と職 員との話し合いを重ねることが大切だと感じている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員は消防署の応急手当講習や内部研修による急変時対応の研修を受けて、実践力を身につけている。利用者の状況把握に努め、状態に応じた対応に備えている。AEDを設置しており、全職員が使用法を学習している。災害時の当避難訓練は実際に非常階段を使用し実施し、緊急時に迅速に対応できるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練を年2回行っている。地域の災害訓練にも参加し、学びを深めた。春の避難訓練には地域の方が参加してくれ、意見交換ができた。マニュアルの見直しや地域連携の重要性、訓練の大切さを改めて感じている。地域と互いにサポートし合い、地域の災害対策にも協力していく。 (外部評価) 年2回防災訓練を実施している。立花地区の住民は防災活動に意識が高く、消防団員が運営推進会議に参加してくれ助言を得ている。事業所は山や海から離れた立地にあり、建物は耐震構造で、利用者を災害から守ることはもちろんのこと、地域の防災の拠点となるよう計画をしている。	地域の防災活動にも参加し、災害時には近隣の被災者の方々を事業所で受け入れできるよう計画中で、備蓄品も徐々に増やしている。引き続き少しずつ防災対策を具体化し、実現化していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 雇用契約時には秘密保持についての誓約書を交わしている。内部研修でプライバシーの確保について学んでいる。全職員が、具体的な介護の方法、声掛けの方法などに配慮して、さりげないサポートができるよう努める。 (外部評価) 利用開始時に職員が利用者や家族に説明をして、守秘義務の誓約書を交わしている。職員一人ひとりのケアの向上が利用者の尊重とプライバシーの確保に繋がると考え、県社会福祉協議会や在宅介護研修センター、グループホーム協議会などの研修に参加し、内部研修で職員全員が共有し実践できるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定の場面を大切にして、能力に応じた対応をし、希望や願いを意図的に引き出せるよう関わっていく。自己決定をすることが困難な利用者に対しては、日々の行動・言動・表情などを観察し、できる限り本人が好む方法を、職員間で話し合い支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人一人のペースを大切にした支援をしている。起床、入浴、食事、トイレ等のケアも個々のリズムを尊重し、柔軟な支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝の洋服選びから、外出時のおしゃれも利用者の好み応じて自由に着ていただいている。必要に応じてこちらがアドバイスをを行い支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 農園で野菜を栽培している。地元の食材、旬のものを沢山使った料理をバランスに配慮して全て手作りで食事を提供している。食事の準備や片づけはできる範囲で利用者と一緒に行っている。お盆ふきは、ほとんど利用者が一人でふいてくれており、できることを積極的に行っている。 (外部評価) 事業所の創業者は食事に対してこだわりがあり、野菜は法人の畑で採れた無農薬野菜を使い、魚は朝市場まで職員が買い出しに行き、新鮮な旬のものを使った手作りの食事を利用者に提供している。品数も多く調理方法も多彩で、食器にも工夫をしている。職員は利用者と同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をしている。また、利用者は食器の片付けなどできることを職員と一緒に手伝っている。食事の調理は職員の教育にもなると考え、調理の指導にも力を入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 好みや習慣を把握し、十分な水分摂取ができるよう摂取量をチェックして職員全員で気をつけている。バランスのよい食事の提供には十分配慮している。好き嫌いなど、偏食がある場合は、違った形で摂取できるよう方法を検討して対応している。健康管理と共に、状況に応じ主治医にも対応策を相談している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食前の口腔体操を行い、食後は毎回個々にあった口腔ケアを実施している。義歯は毎晩洗浄消毒している。口腔ケアの際は、個々の口腔状態を把握し、異常はないかを実際に見て把握し、必要に応じて、専門医を受診し、適切な処置や指導を受けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄をトイレでできるようにトイレチェック表を使用して一人一人の排泄パターンを把握し、「おむつ0ゼロ」を目標に、おむつやパット使用を減らせるよう努めている。認知症の重度化により、尿失禁が増え、パットを使用している利用者でも、きちんと便座に座り排泄が行えるよう支援している。 (外部評価) トイレチェック表を利用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけしトイレ誘導を行いながらトイレで排泄ができるよう努めている。極力利用者にはオムツを使用することなく、紙パンツの使用で対応している。夜間は、状態に応じてパットの大きさを変更し対応しており、睡眠を重視し利用者を無理に起こすことはしていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 適度な運動、水分の摂取、食物繊維の多い食事など予防・対応に努めている。食事・水分などは、個々の摂取量を把握し、状態の変化を把握できるよう記録している。きな粉牛乳や、腹部マッサージも行っている。必要に応じ、主治医に相談して指示や処方を受けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者は毎日夕方、入浴をしている。入浴の順番や洗髪など利用者の希望や身体の状態に応じて対応している。家庭用ユニットバスの個人浴であり、また利用者と職員とのコミュニケーションの場になっている。身体の様子など入浴時に把握できることが多々ある。 (外部評価) 清潔保持のため、利用者の希望に応じて毎日夕方に入浴することができる。入浴が苦手な利用者には、無理強いをせず、声かけなどに工夫して入浴ができるよう支援している。時には、鈍川温泉のお湯を運んできて、利用者にわかるよう浴室の入口に鈍川温泉と表示し、入浴を楽しむことができる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間しっかり安眠できるよう、日中身体を適度に動かせる支援をしている。生活リズムを整え、個々のペースで過ごせるよう配慮している。体調などにも留意して、必要な休息がとれるよう、また、入眠まで落ち着いた時間が過ぎるよう配慮している。季節により考慮し、気温や室温にも注意し調整をし、快適に安眠してもらえるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 日々の健康管理と主治医との連携を密にし、処方されたものは処方箋等で、目的、副作用、用法、用量などを十分理解して、チェック表により確認を慎重にしながら服薬管理をしている。必要に応じ、主治医へ状況を連絡して、治療や服薬調整を行い、錠剤を粉末に変えるなどの工夫をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や希望などを把握し、一人一人が生活に楽しみや生きがいを見つけられるよう日々の余暇活動を考えて支援している。家族や友人とのお出かけなど、外出や外泊も個々で自由にしていただき、気分転換が図れている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の行事や買い物、季節のお出かけなど、楽しみながら過ごせるよう支援している。家族とドライブやお出かけなどもよく行かれている。フロアでの外出が難しくなっているが、安全に外出できるよう職員間で話し合い、利用者が地域に関われるように努めている。 (外部評価) 事業所の近くにお寺が多く、日常にお寺などに出かけられるよう支援している。季節に応じて、弁当を持って花見に出かけたり、100円均一の店に買い物に出かけたりして気分転換を図っている。事業所の近くに法人のグループ企業の店舗があり、正月の休業を利用して、利用者はおせち料理を食べて外食気分を味わってもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の希望や力に応じて支援している。お小遣いとして預かっているお金の管理状況を、定期的に家族や本人に伝えて、合意を得ている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 月1回の新聞に手紙を書き、家族へ送っている。個々の希望により、電話で要望を伝えるなど支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 段差のないバリアフリー構造である。手すりも設置している。室温は、床暖房、空調設備を設置し、体調面へ配慮しながら調整している。生活の音や炊事の香り、絵画や工作物、テーブルの上には季節の花など、季節や五感に刺激のある環境が作られるよう利用者と一緒に楽しみながら行っている。 (外部評価) リビングのスペースは広く、バリアフリーの造りをしており、利用者は安全にゆったりと過ごすことができる。季節感を大切にして生花や創作物を飾り、ピアノや古い家具などがさりげなく配置してあり、落ち着いた空間となっている。浴室やトイレの掃除は行き届き、においもなく清潔さが保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食卓の間、ソファの間、畳の間など、ゆったりと過ごせるスペースがある。庭にも自由にできることができ、ベンチを置き、庭には四季折々の花々が咲き憩いの場となっている。また自室に花を置かれて、毎日水かえをされている人もおられる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は、家族に依頼し、自宅で使っていたもので馴染みのモノをもってきていただき、過ごしやすく居心地のよい部屋をつくらせていただいている。写真、工作物を飾っている。 (外部評価) 居室は、家族にお願いして自宅で使い慣れた机、いす、タンスなど持ち込むことができ、落ち着きのある空間となっている。居室の清掃は、職員が利用者と一緒に毎朝行っており、清潔が保たれている。衣替は、季節に応じて家族が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個々の状況把握に努め、不安や混乱なく安心して過ごせる環境作りを職員間で話し合い、工夫をしている。	